

令和三年度 書道講習会

「拓本」身近なもので
拓を採ってみよう

事業部長 牧 仙 岳

▼日時 令和三年十月三十日(土)

▼会場 一宮市民会館

▼講師 小坂克子先生

毎年恒例の研修旅行が、長引くコロナ禍の為、昨年続き、本年も中止せざるを得ないこととなり、それ変わる事業として、『拓本』身近なもので拓を採ってみよう」と題する講習会を部長会メンバー総意にて開催することとなりました。

講師として、篆刻家の小坂克子先生をお招きし、まずは、小坂先生の講義「採った拓本を使って作品を制作する」をテーマにスライドを使い、実際の作品の映像を鑑賞しながら進められました。また、会場壁面には、先生の軸装作品、机上には二×三メートル四方にも及ぶ大作が披露され、参加者の目を釘付けにしていました。

つづいて、講師の実演の後、参加者の実習へと進めら

れ、参加者はそれぞれ持ち寄った器物に真剣そのもの「うまく採れた…。」とか、「ちよつと失敗かな…。」とか、楽しいひとときを過ごさせて頂きました。

ちなみに今回は、湿拓用油性の墨を使用することで比較的うまく拓を採ることが出来ましたが、磨った墨を使用した場合は、少々技術がいるとのことでした。

コロナ対策にて、人数制限をし、少人数での講習会でした。

コロナ収束後、多くの参加者のもと再度の開催を期待したいものです。

小坂先生には、ご熱心なご指導ほんとうにありがとうございました。

